

九州大学大学院 フェロー会員 貝沼 重信
九州大学大学院 学生会員 平尾みなみ

図-2 塩付着量の測定箇所と領域

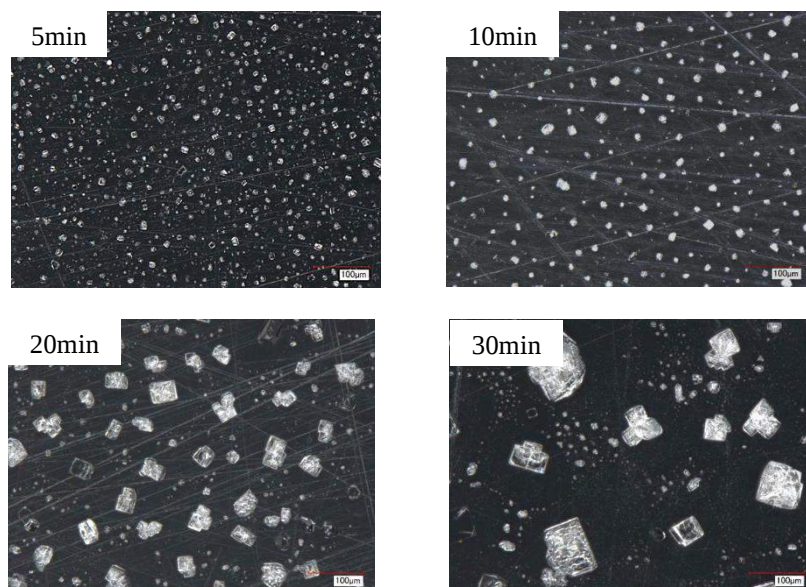


図-3 噴霧時間毎の塩の付着状況

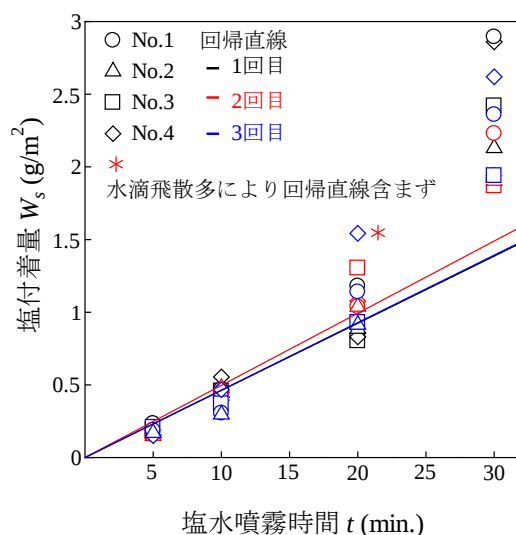


図-4 噴霧時間と塩付着量の関係

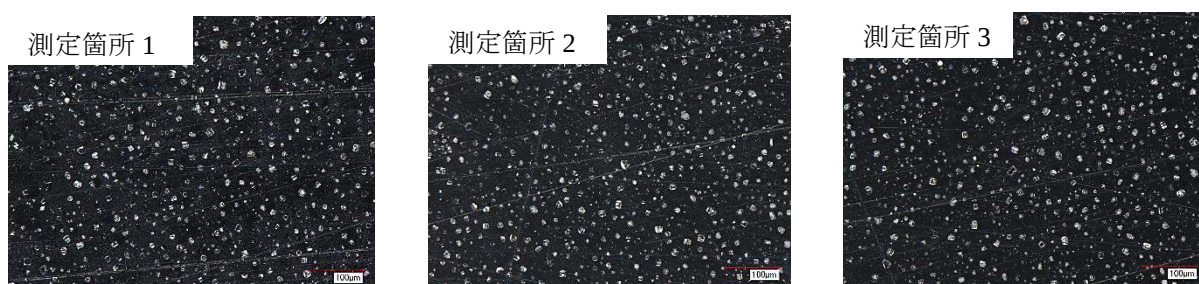


図-5 測定箇所による塩結晶の付着状況（10min）

4. まとめ 本研究では円筒密閉空間で 20wt%NaCl aq を超音波噴霧器により噴霧することで、試験体の表面に塩粒子を付着させる方法を検討した。その結果、本塩付着方法で 10min あるいは 20min 超音波噴霧した後に乾燥を繰り返すことで、塩粒子を対象表面（70×150mm）の位置によらず、噴霧時間で塩付着量を制御できることを明らかにした。今後、ブラスト処理した鋼板表面を対象とした定量塩付着について検討を行う予定である。

参考文献 1) 藤井和美, 高橋克仁, 菅原政典: 大気腐食促進試験方法 ISO16539 における塩分付着方法の検討, 材料と環境, Vol.64, pp.458-461, 2015. 2) 梶山浩志, 藤田栄, 藤井和美, 酒井政則: 現状腐食試験方法の課題と新腐食試験方法の開発, 材料と環境, Vol.55, pp.356-363, 2006.